東京新聞
2017年(平成29年)4月6日(木曜日)

大岡信さん死去

86歳 折々のうた、文化勲章

「連詩」を海外に広めた詩人で、朝日新聞のコラム「折々のうた」や評論でも知られた文化勲章受章者の大岡信さんが五日、誤嚥性肺炎による呼吸不全のため死去した。八十六歳。静岡県出身。葬儀・告別式は近親者で行う。喪主は劇作家の妻深瀬サキ(本名大岡かね子)さん。後日お別れの会を開く。

＝評伝28面

東京大文学部を卒業後、読売新聞外報部記者の傍ら、同人誌「櫂」やシュールレアリスムの研究会で詩を作り、一九五六年に詩集「記憶と現在」を刊行。

評論「蕩児の家系」で六九年に藤村記念歴程賞を受賞。七一年刊行の評論「紀貫之」で翌年に読売文学賞。七九年から新聞に連載した詩歌を巡るコラム「折々のうた」(菊池寛賞)は、休載を挟みながら二〇〇七年まで続いた長期連載だった。評伝「岡倉天心」などの美術関連の評論や戯曲、ラジオドラマ、映画の脚本なども手掛けた。一九九五年には、詩人、評論家としての活動を評価され恩賜賞・日本芸術院賞を受けた。

日本の連歌の形式で海外の詩人と共同制作する「連詩」や、外国での朗読会、講演などを通じて日本文学の紹介に努め、文学者の国際交流を積極的に進めた。二〇〇三年に文化勲章、翌年には文化交流の功労に対しフランス政府からレジオン・ドヌール勲章(オフィシエ)を贈られた。

明治大、東京芸術大教授を歴任。日本現代詩人会会長のほか、日本ペンクラブ会長を務めた。〇九年には三島市に「大岡信ことば館」が開館した。

日本芸術院会員。長男は芥川賞作家の大岡玲さん。

脳梗塞などを患い約五年前から自宅で療養していた。玲さんによると四日未明に熱を出して病院に運ばれ、最期は眠るようだったという。